

人間社会学部

試験問題冊子

(B日程 2月22日)

国語

注 意

- ① 試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開かないこと。
- ② 問題冊子に落丁、乱丁があった場合は、試験監督者に申し出ること。
- ③ 試験監督者が試験開始の指示をしたら、ただちに解答用紙の所定欄に、受験番号を記入し、マークすること。
- ④ 解答は全て解答用紙に記入すること。
- ⑤ マーク式解答欄および裏面の記述式解答欄の指定された箇所以外は使用しないこと。
- ⑥ 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

注意 解答はすべて各問の下端の 内に指示された解答欄にマークまたは記入すること。なお、解答欄のうち、この試験で使うのは、マーク式解答欄の 1 14、記述式解答欄の A J のみである。

問題一 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

なにか悪い事が起きたとき、単純明快な理由を見つけたくなる傾向が、犯人捜し本能だ。わたしも最近ついそうしたくなる事があった。ホテルでシャワーを浴びているとき、湯の温度を上げようとしてハンドルを目いっぱい回してしまった。最初はなんともなかったが、すぐに熱湯が出てきてやけどしそうになった。まず配管工に頭にきて、それからホテルの支配人に、そして隣の部屋で冷水を流している客に怒りのホコサキを向けた。でも、誰も悪くない。誰かがわざとわたしを傷つけようとしたわけでもなければ、気遣いが足りないわけでもなかった。悪いのはおそらくわたしで、もっとゆつくりとハンドルを回して湯の温度をちよつとずつ上げていけばよかっただけだ。

物事がうまくいかないと、誰かがわざと悪いことを仕組んだように思いがちだ。誰かの意思で物事は起きると信じたものだし、一人ひとりに社会を動かす力と手立てがあると信じていれば、おのずとそう考えるようになるだろう。個人が社会を動かしていると考えれば、社会は得体の知れないものだという恐怖心を取り払える。

わたしたちは犯人捜し本能のせいで、個人なり集団なりが実際より影響力があると勘違いしてしまう。誰かを責めたいという本能から、事実に基づいて本当の世界を見ることができなくなってしまう。誰かを責めることに気持ちが向くと、学びが止まる。一発食らわす相手が見つかったら、そのほかの理由を見つけようとしなくなるからだ。そうになると、問題解決から遠のいてしまったり、また同じ失敗をしでかしたりすることになる。誰かが悪いと責めることで、複雑な真実から目をそらし、正しいことに力を注げなくなってしまう。

たとえば、飛行機事故を睡眠不足のパイロットのせいにしても、次の事故は防げない。次の事故を防ぐには、なぜパイロットはウトウトしてしまったのかを探るべきだろう。今後どうしたら睡眠不足のパイロットにソウジュウさせないようにできるだろう？パイロットのウトウトを見つけた時点で考えるのをやめてしまったら、そこから先に進めない。世界の深刻な問題を理解するためには、問題を引き起こすシステムを見直さないといけない。犯人捜しをしている場合ではない。

物事がうまくいっているときにも、犯人捜し本能はわき上がる。「誰かのせいになりたい」気持ちには、責めるときも褒めるときも同じなのだ。物事がうまくいくと、誰かひとりのコウセキ³にしたり、単純な理由を見つけたくなってしまう。でも、ここでもたいていの場合、物事は a 複雑なのだ。

もし本当に世界を変えたいのなら、肝に銘じておこう。犯人捜し本能は役に立たないと。犯人捜しには、その人の好みが表示される。人は自分の思い込みに合う悪者を探そうとする。では、世の中でいちばん悪者扱いされる人たちを見てみよう。悪どいビジネスマン、嘘つきジャーナリスト、そしてガイジンだ。

わたしはいつも事実を見るように心がけてはいるけれど、それでも先入観に負けてしまうことがある。ある日ユニセフから依頼を受けて、アンゴラに送るマラリアの薬の入札者について調べることになった。わたしはこの製薬会社をあたまたから疑ってかかっていた。価格は妙だったし、サギ⁴に違いないと意気込んだ。悪徳企業がユニセフから甘い汁を吸うつもりだな。よし、いっちょ化けの皮を剥いでやるか。

いま思えば、なぜそんな先入観を持ってしまったのか不思議だ。子供の頃にドナルドダックのマンガばかり読んでいたから、強欲なおじさんのスクルージ・マックダックのことが刷り込まれてしまったのかもしれない。さっき話した学生たちと同じで、わたしも昔は製薬会社について深く考えていなかったのかもしれない。

話を戻すと、ユニセフは製薬会社と10年契約を結んで薬品を買い入れる。どの製薬会社にするかは競争入札で決めている。長期にわたって大量に買い入れてもらえば製薬会社にとってはありがたいので、入札価格はかなり割安になる。とはいえ今回は、スイスのルガーノにあるリボファームという小さな家族経営の会社が、ありえないほど安い価格で入札していた。1錠あたりの値段が、原料価格よりも安かったのだ。

わたしは現地に飛んで、内実を調べることになった。まずチューリッヒに行き、そこから小型機でルガーノの小さな空港に降り立った。安物の服を着た出迎えの人が待っているだろうくらいに思っていたら、リムジンに乘せられて敷居⁵の高そうな超豪華ホテルに連れて行かれた。つい、妻に電話して、「シートが絹だぞ」と言ってしまったほどだ。

翌朝迎えが来て、わたしは工場に向かった。工場長と握手を交わしたあと、すぐに本題に入った。「ブダペストから原料を買って錠剤をつくり、それを包装して箱に入れてコンテナ船に積んで、ジェノバに送り届けるんですね。どうしたら原料価格より安い値段で、そんなことができるんですか？ハンガリー人から何か特別な割引でももらっているんですか？」

「原料の仕入れ価格はみなさんと同じですよ」と工場長。

「でも、リムジンで迎えてくれたじゃないですか？どこからそんなカネが出るんですか？」

工場長はにっこりした。

「ああ、こういうことなんです。わたしたちは数年前に、ロボット化によって製薬業界が変わると気づきました。そこで、世界最速の錠剤製造機を自分たちで開発して、ここに小さな工場を建てたんです。製造以外のプロセスも隅々まで自動化しています。大企業の工場も、うちと比べたら手工芸店みたいなものですよ。まず、ブダペストに原料を注文します。月曜に電車で原料が届きます。水曜の午後にはアンゴラ行きの1年分のマラリアの薬が箱づめされ発送できるようになっています。木曜の朝には薬がジェノバに到着します。ユニセフが薬をチェックして受領書にサインしたら、その日のうちに代金がわたしたちのチューリッヒの口座に振り込まれます」

「でも、おかしいじゃありませんか。売り値のほうが原価より安いんでしょ？」

「おっしゃるとおり。でも、原料の仕入先への支払いは30日後で、ユニセフは4日後に代金を支払ってくれます。だからおカネが口座に眠っている26日間は金利が稼げるんです」

そうだったのか。言葉が見つからなかった。そんなやり方があるなんて思いもしなかつ

た。

わたしの頭の中はすっかり、b ったことになっていた。小さな企業にそんな革新的な力があるなんて、まったく想像がつかなかった。安上がりなやり方を実現できる、すごい力を持った企業だったのだ。彼らもまた正義の味方だった。

知識人や政治家はもっともらしくメディアを責めるし、真実を報道してないと訴える。わたしも前の章ではメディアをc しているように聞こえたかもしれない。でも、ジャーナリストを責めるより、こう問いかけてみるべきだろう。メディアはなぜ、世界を歪んだ見方で報道するのか、と。ジャーナリストは本当に歪んだ見方を押し付けたのだろうか？ それとも、ほかに理由があるのだろうか？（断っておくが、意図的に流されるフェイクニュースについてここで話すつもりはない。それはまったく別の話で、ジャーナリズムとはなんの関係もない。それに、わたしたちが世界を歪んだ目で見てしまっているのは、フェイクニュースのせいだけじゃない。間違った世界の見方はいまに始まったことではなく、ずっと前からそうだった）。

（『FACTFULNESS（ファクトフルネス）』ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロンランド著、上杉周作、関美和訳、日経BP）

問1 傍線部1、2、3、4のカタカナを漢字に直し、傍線部5の漢字のよみをひらがなで、それぞれ記述式解答欄に記入しなさい。

1 A 2 B 3 C 4 D 5 E

問2 傍線部A「犯人捜し本能」の事例として適当ではないものを次の①～④の中から一つ選びなさい。

1

- ① ホテルでシャワーから出てきたお湯が熱湯であったことを配管工などのせいにする
- ② 物事がうまくいかない時、誰かがわざと悪いことを仕組んだと思うこと
- ③ リムジンに乗せられて超豪華ホテルに連れて行かれたのを怪しむこと
- ④ 誰かを責めたいという気持ちから、事実に基づいて本当の世界を見ることができなくなっていること

問3 空欄aに当てはまる語として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選びなさい。

2

- ① おのずと
- ② 同時に
- ③ はるかに
- ④ わずかに

問4 傍線部イ「なぜそんな先入観を持ってしまったのか」の説明として最も適当ではないものを次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 思い込みや、決めつけはよくないことだと肝に銘じているから
- ② 子供の頃に悪人のマンガばかり読んでいたから
- ③ 製薬会社について深く考えていなかったから
- ④ 悪徳企業がユニセフから甘い汁を吸うはずだから

問5 空欄 b に当てはまる文章として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① ユニセフは革新的な組織で、製薬会社は古い体質の企業
- ② 製薬会社は革新的企業で、ユニセフは古い体質の組織
- ③ 製薬会社は正義の味方で、ユニセフは悪どいことを考えている敵役
- ④ ユニセフは正義の味方で、製薬会社は悪どいことを考えている敵役

問6 空欄 c に当てはまる語として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 歪曲
- ② 批判
- ③ 援用
- ④ 非難

問7 リボファーム社が売り値のほうが原価より安く販売できる理由の中から、最も適当なもの¹を次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 製造作業を内製化しているから
- ② 原価を特別な形で仕入れているから
- ③ 競争入札で決めているから
- ④ 銀行の利息で収益を上げているから

問8 傍線部ウ「世界を歪んだ目で見てしまう」について、著者はどのように考えていたのか。最も適当ではないものを次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 事実を見るように心がけていても、先入観に負けてしまうことがある
- ② 個人が社会を動かしていると考えれば、社会は得体の知れないものだという恐怖心を取り払える
- ③ 誰かを責めたいという本能には、事実に基づいて本当の世界を見る影響力が備わっている
- ④ 誰かが悪いと責めることで、現実から目をそらし、正しいことに力を注げなくなってしまう

問題二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

「対話」と呼ぶべき出来事が起こるときには、あるいは「対話」であるためには、いくつかの条件があります。

- ・偶然であること——何かを準備したから起こるのではなく、偶然から「対話」になることが多い。
- ・突然に起こること——何のまえぶれもなく、重要な出来事が起こることがある。
- ・一回しか起きない——二度、同じ「対話」を繰り返すことはできない。
- ・持続的に深化する——対話は、ゆっくり時間をかけて深まっていく。

これらはすべて読書にもいえることです。こうして書いてみると明らかのように、読書は、対話であると同時に、ある種の **a** でもあります。ですから、あまり準備をしなくても意味がない場合があります。

打ち合わせと対話は違います。打ち合わせに準備は不可欠です。それは決まった日時に行われます。そして、打ち合わせは **b** 的な方がよい。

c、読書という「対話」に求められるのは、まるで反対のことなのです。**b** 的な「対話」はありませんし、**b** を求めることは、しばしば対話の誕生の邪魔をします。

打ち合わせの場合は、話し合うべきことは事前に決まっています。しかし、対話は違います。いつ何が起るかも分からないのです。

向き合っている開かれた二つの心のあいだに、何が行き交うのかは誰も知りません。そして、何よりもほんとうに対話を実現したいと思うとき、相手が話し始めるのを待たなくてはならないことがあります。私たちは、早く話させようとしても、相手の心は動かないことを経験的に知っています。

「待つ」ことが対話において、もっとも大切な営みであることを知っています。

二十世紀フランスを代表する哲学者にアンリ・ベルグソンという人物がいます。彼は「時間」とは何かを考え、独創的な仕事を残しました。「待つ」ということをめぐって次のように述べています。

砂糖水が作りたいたいと思つたとする。その場合、私が何をしようと、砂糖が水に溶けるまで待たねばならぬ。このささやかな事実が、大きな教訓だ

(小林秀雄訳『感想』より)

「私が何をしようと」という一節は、印象的です。単純な事実ですが、とても大切なことです。「待つ」という行為は、私たちが日ごろ感じているよりもずっと、本質的かつソウゾウ的な営みだということです。

これは読書の秘密を考へるときにも重要な助言になります。本が読めなくなっているとき、私たちは今まで出会ったことのない何かの訪れを「待つて」いるのかもしれない

のです。

ずっと黙っていた人が、突然人生の秘密を語り始めることがあるように、見慣れた文字の奥に、人生を深みから照らすような意味を感じることがあります。

重要な告白は、むしろかしい言葉で告げられることは少ないのではないのでしょうか。むしろ、平凡な言葉が、とても大きな意味をもって迫ってくることもあります。

こうしたときにこそ、これまで「待つて」²いたのは、この一言を聞くための準備だった、そう感じるような出会いにソウグウしているのです。

本を読む人が心を閉ざしたままでは、「小さな声」は聞き取れません。「効率」という考え方を忘れ、読む人が心を開いたとき、書物もまた、何かを語り始めるのです。

世の中には、読書法について書かれた本が多くあります。それらの多くは、どうしたら効率よく本が読めるか、無駄のない読書とは何か、あるいは何を読むべきかをめぐって書かれています。そして、それらは、読書が好きな人に、もっと好きになってもらうための本である場合が多いようです。

(*1)

しかし、この本の目的はまったく違います。本が読めなくなったことのある人、あるいは、今、まさに本が読めなくなっている人のための読書論です。

本が読めなくなっているのですから、読むべき本をすすめることは、あまり意味がありません。それはカコク³なことを強いる結果になりかねないからです。

(*2)

この本で考えてみたいのは、効率的な読書法ではなく、読みたいのに、読めなくなつた理由とその壁を乗り越える方法です。

そこでまず、感じ直してみたいのは、どう読むか、何を読むかよりも、「読む」とは何か、という問題なのです。

「読む」とは何かが分からないのに、どう読むか、あるいは、何を読むべきかを考えても、よい考えにたどり着くのはむずかしいかもしれません。

どのくらい本を読むかという調査があります。そのほとんどは、月に何冊の本を読むのかという設問になっています。多くの本を読むのがよい、ということなのでしょう。ここには、多くの本にふれていれば、何かが起こるといふ前提があるのだと思います。そうかと思えば、もし、無人島に一冊しか本をもっていけないとしたら何をもつていくか、という質問もあります。

最初の質問は、読書量に関する問題ですが、次の質問はまったく異なることが問われています。その人にとって「読書」とはどのような経験だったのか、あるいはその人が読書によって何を見出したのかが尋ねられています。

何冊読むかという質問は、無意味ではありませんが、さほど大きな意味もありません。ほかの人が月に何冊本を読んでいようが、関係がありません。

人が月に何個のパンを食べるのかを気にする人は少ないと思います。パンはあまり好きではないから食べない、という人がいても、別に不思議には感じません。そうだとしたら、どうしてそんなに読書量を気にするのでしょうか。

それは、読書とは知識量をふやすためのものである、と思いついでいるからではない

でしょうか。

いつからか私たちは、本を読む目的の中心に知識をタクワ⁴えることを置くようになったのかもしれませんが。もちろん、それも本を読む意味の一つです。しかし、読書には、量を競うようなところで終わらない可能性が潜⁵んでいます。

(*3)

楽しむのために本を読むこともあれば、何か未知なるものとの出会いを願って本を読むこともあります。ある人は、話題になっているからということでも本を手にとるかもしれません。

人が何を、どう、どれくらい読んでいるかを気にする必要はありません。それはその人と読書の関係なのです。他者と比べる習慣から自由になることができれば、問題の半分は解決できたようなものです。

(*4)

(若松英輔 『本を読めなくなった人のための読書論』)

問1 傍線部1、2、3、4のカタカナを漢字に直し、傍線部5の漢字の読みをひらがなで、それぞれ記述式回答欄に記入しなさい。

- 1 2 3 4 5

問2 この文章の前半部分の題名をつけるとすると、最も適当なものを次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 対話の条件
- ② 読書は対話
- ③ 対話は読書
- ④ 読書と心

問3 空欄 a にあてはまる語として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 旅行
- ② 試験
- ③ 争い
- ④ 冒険

問4 空欄 b にあてはまる語として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選
びなさい。

- ① 効果
- ② 理性
- ③ 効率
- ④ 進歩

10

問5 空欄 c にあてはまる語として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選
びなさい。

- ① だから
- ② しかし
- ③ また
- ④ むしろ

11

問6 傍線部アの説明として最も適当なものを次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 打合せをしようとしている人の心
- ② 読書をする人と本
- ③ 対話をしようとしている人の心
- ④ 読書をする人と対話をする人の心

12

問7 次の一文が入る場所として最も適当なのは文中の(*1)～(*4)のどこか、
次の①～④の中から一つ選びなさい。

13

「結論めいたことをいいますが、本が読めないときは無理して読まなくてもよいの
です。ただ、読みたいのに読めないのであれば、読めるようになるのは悪いことでは
ありません。」

- ① (*1)
- ② (*2)
- ③ (*3)
- ④ (*4)

問8 著者が述べたかったことと最も合致しないのはどれか。次の①～④の中から一つ
選びなさい。

14

- ① どのように読書をするかは人によって違う。
- ② 読書をする目的のひとつは知識を増やすことである。
- ③ 読書をする前にあらかじめ読書によって何が起きるかを知ることができない。
- ④ 読みたくない人が読書をする必要はない。

(以上)

